



和歌山市でも「開院」決定！～はしもとおもちゃ病院

「おもちゃ病院」をご存知でしょうか。「思い出」や「想い」がある壊れたおもちゃはありませんか？修理してもらおうところがわからなくて、捨てるにも捨てられないおもちゃはありませんか？
全国組織のボランティア団体「日本おもちゃ病院協会」では、こうしたおもちゃを治す「おもちゃ病院」の活動を全国各地で展開しています。壊れたおもちゃを原則無料で治す県内唯一の「はしもとおもちゃ病院」が橋本市で活動しており、来月には和歌山市でも「開院」します。



★はしもとおもちゃ病院

診療日	毎月第2土曜日・第4日曜日
診療時間	午前9時～12時
診療場所	橋本市教育文化会館3階
お問い合わせ	橋本社会福祉協議会 TEL:0736-33-1294

★和歌山市おもちゃ病院

診療日	毎月第1土曜日（1月は休診）
診療時間	午前9時～12時
診療場所	和歌山市あいあいセンター福祉交流館4階工作室
お問い合わせ	和歌山市社会福祉協議会ボランティアセンター TEL:073-431-0028

「はしもとおもちゃ病院」院長の柏木さんは、大阪府富田市のおもちゃ病院で4年間修業し、2009年に橋本市で開業することになりました。開業するにあたって仲間の「ドクター」が必要だということで橋本市社会福祉協議会の協力のもと「ドクター養成講座」を開き、5人のドクターとともに開業。現在は15人のドクターがいるそうです。「診療日」は毎月第2土曜日と第4日曜日のそれぞれ午前9時から正午まで、橋本市教育文化会館3階にて診察されています。部屋の前には「診療中」のかわいい看板がかかっています、部屋に入ると白衣ならぬ胸元に「はしもとおもちゃ病院」と書かれた青いエプロンをかけたドクターたちが迎えてくれます。まずカルテに壊れた時期や状態を記入

「音が鳴らなくなりました」「動きが遅い」など症状は多様ですが、おもちゃを数人で診察し、原因を究明し治療に入ります。診察に約1時間をかけ、すぐに治らない場合は「入院」もあります。おもちゃを預けるのが嫌だめらう子どもや、泣いてしまつて治療せずに持ち帰る子どももいるそうです。それだけ子どもにとって大切な「おもちゃ」だから何とか治してあげたい、と一生懸命知恵を出し合い「治している」そうです。

なかでも最近のおもちゃは繊細で複雑なので分解に時間がかかり、古いおもちゃは交換部品を手に入れるのが大変だそうです。和歌山市にも誕生！はしもとおもちゃ病院は、橋本市や社会福祉協議会が主催するイベントなどにも積極的に出張診療しています。



親子での「診療」が珍しくありません
ドクターが手分けして修理を担当

おもちゃ病院
壊れたおもちゃを治療（修理）します
7月1日（土）OPEN！
診療日：毎月第1土曜日（1月は休診）
診療時間：午前9時～12時
診療場所：和歌山市あいあいセンター福祉交流館4階 工作室
お問い合わせ：和歌山市社会福祉協議会（小学生以下は保護者同伴）

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- 和歌山子どもの虐待防止協会 公開講演会
映画「さとにきたらええやん」を上映します。監督の重江良樹さんも登壇。みなさんで考えます。
日時 6月18日（日）14:30～17:00
場所 和歌山県立医科大学保健看護学部大講義室
内容 映画上映（100分）、監督からの講話。
参加費 無料
問い合わせ 和歌山子どもの虐待防止協会（073-425-6626）
- 転勤☆ズおしゃべり交流会
転勤・就職・結婚等で和歌山に来られた方の情報交換・仲間づくりサークル。子連れ歓迎、遅刻・早退OKです。
日程 6月24日（土）10:00～12:00
場所 和歌山ビッグ愛9階体育ルーム
参加費 無料
問い合わせ・申込み 転勤☆ズ（メール tenkinwakayama@yahoo.co.jp）
- 女性のための行政なんでも相談所
総務大臣に委嘱された行政相談委員がセクハラ、DV、登記、年金、生活保護など、暮らしに関するご相談にお答えします。
日程 6月27日（火）11:00～12:00
場所 和歌山ビッグ愛6階レスナールーム
講師 木田 真美さん
参加費 500円
持ち物 動きやすい服装、タオル等、飲み物、ヨガマット（レンタルあり）
定員 15名（申し込み必要・先着順）
問い合わせ・申し込み 和歌山ビッグ愛（073-435-5200）



SDGs 国連・持続可能な開発目標を知ろう ⑪

【目標9 強靱（レジリエント）なインフラ整備、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る】
目標9はインフラ構築や持続可能な産業について述べられています。

2030年までの目標として、①地域内外のインフラを含め、持続可能かつ強靱なインフラを開発、②各国の状況に応じて雇用・産業セクターの割合の増加、③小規模製造業を中心に安価な融資などの金融サービスや市場を利用しやすくする、④資源利用効率の向上、クリーン技術や環境配慮型の技術・産業の改善を実施する、⑤イノベーションの促進と人口あたりの研究開発従事者を大幅に増加させる、⑥開発途上国におけるインフラ開発の促進、を挙げています。

また、これに向けて、⑦開発途上国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を図る、⑧産業の多様化や高付加価値化などを通じた開発途上国の技術支援を拡大、⑨2020年までに開発途上国におけるインターネットアクセスを低廉な価格で提供をおこなう、ことが挙げられています。

SDGsでは「強靱（レジリエント）」という言葉があちこちで登場します。「強靱」「レジリエント」とは、単に「強い」だけではなく、「強くてしなやか」と解釈されます。様々な見方がありますが、ここでいう「強靱（レジリエント）」は、災害や緊急事態に対応できる力、防災力の向上などを含めた強さという趣旨で使われているようです。
例えば、EUは2012年に、自然災害による経済的損失が増大していることに対する懸念を表明し、国際機関に対して、災害に脆弱な国々を災害に強い社会づくりに転換させるための技術協力や資金支援を提供することを発表しています。耐震性向上などインフラそのものの強化のほか、インフラの整備に携わる人的資源に対する訓練や能力向上、インフラへの影響を早期に察知できる仕組みの構

築などを投資により実現する必要があるという指摘も出ています。

なおこの指摘には、2011年の東日本大震災によって日本が受けた大きな被害とそこから得られた教訓が込められています。また、世界各地の経済発展により、大規模災害に見舞われた際の被害が大きくなり、復旧までの時間と費用がこれまでよりも多くなるようになってきていることも背景にあるようです。

一方、世界全体としては、特に後発の開発途上国においての生産性向上に向けた様々な取り組みを推進する必要があると指摘されており、生産能力や雇用のほか、金融、農林水産業、工業、近代的なエネルギー活用等、あらゆる分野での技術革新を進めるための支援を求めています。特に先進国がそのリード役を担うことが期待されています。

もちろん自国の経済等も大事ではありますが、世界各国の経済活動が全体として底上げできるような施策が求められているのです。

【次回はわかつく166号に掲載予定です】